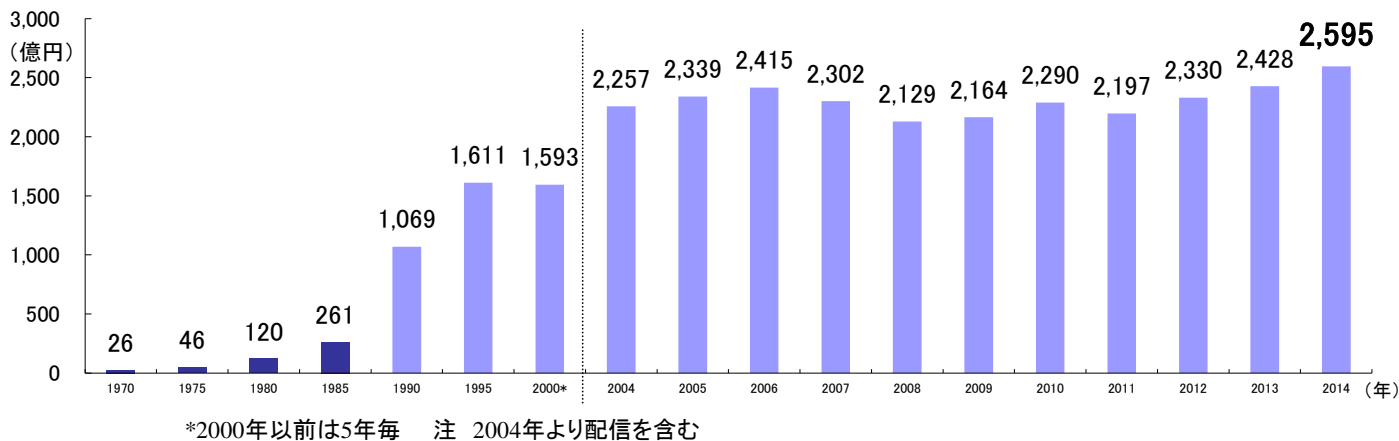


2014年のアニメ市場は過去最高の規模に

◆アニメーション市場規模の推移<1970-2014年>



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2014年(暦年)のアニメーション市場規模(ユーザー支出額)は、前年比増となった市場が多かった結果、合計2595億円(前年比106.9%)と過去最大の規模になりました。

劇映画市場は邦画の定番となったシリーズ作品の興行収入が安定したことに加え、洋画・邦画ともに大きなヒット作が登場したため、前年より大幅に伸長しました。特に洋画市場は「アナと雪の女王」が興行収入250億円を超える大ヒットとなったため、市場が前年に比べ2倍近くに拡大し全体を牽引しました。また、邦画市場においてもヒット作が続いていることから、劇映画市場は増加傾向にあります。

テレビアニメ市場では、地上波放送は放送本数が微減しており、横ばいとなっています。衛星・CATVは市場全体が安定しており、微増となりました。

ビデオソフト市場は横ばいになりました。セルビデオ市場は、DVDからブルーレイへの移行が進んでいるものの、全体的な伸びは見られません。「アナと雪の女王」のセルビデオが7月に発売されましたが、国内アニメ作品の出荷が伸び悩み、全体としては微増に留まりました。レンタル向けの市場は単価の低下に加え、映像配信コンテンツサービスが充実したことにより、レンタルユーザーが減少傾向にある影響を受け、縮小しています。

配信市場は前年に引き続き伸長しています。配信サービスの充実が進んでおり、コンテンツの種類も増え、利便性が向上しました。「dアニメストア」や「アニメパス」、「アニメ放題」といった携帯事業者による配信サービスも充実し、今後も大きく成長することが見込まれます。一方、フィーチャーフォン向け市場は引き続き大きく減少しています。

2015年は、2014年に劇映画市場が大きく伸びた反動が予想されますが、配信市場では海外発の人気配信サービス「Netflix」が国内で開始されるなどサービスの多様化が進んでおり、市場全体は安定すると見込まれます。

<市場の範囲>

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、スマートフォン・フィーチャーフォン向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

<本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社 メディア開発総研 担当:戸口、近藤 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡を願います。